

|  |                         |            |                                  |
|--|-------------------------|------------|----------------------------------|
| クラスター  | 炎症・免疫系クラスター             |            |                                  |
| 授業科目名  | 炎症と全身管理学・実習             |            |                                  |
| 担当者名   | 責任者                     | 今井 一博      | 分担者 中山 勝敏                        |
| 単位数  | 1単位(選択)                 |            | 配当年次 2年次                         |
| 授業形態   | 講義                      | 実施場所       | 授業計画の[実施場所]を参照                   |
| 開講期間   | 科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します |            |                                  |
| 開講曜日・時間  | 科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します |            |                                  |
| <b>授業の概要・到達目標</b>  |                         |            |                                  |
| <p>授業の目的:呼吸器における炎症・免疫にかかる病因・病態, 治療について理解することを目的とする。</p> <p>授業の到達目標:呼吸器における炎症・免疫にかかる病因・病態, 治療について理解し, 説明することを目標とする。</p> <p>授業の概要:</p> <p>1,2,7,8. 多くの呼吸器疾患は炎症として捉えることができる。気管支喘息, 慢性閉塞性肺疾患, 肺線維症, 感染症を取り上げ, 炎症・免疫の立場から病因・病態, 治療に関して概説する。(担当:中山)</p> <p>3,4. 敗血症などに続発する多臓器不全は急性炎症の全身への波及が本体である。この講義では急性呼吸不全をモデルとして動物実験や臨床例を提示して, 理論とその治療の背景に関して学ぶ。(担当:今井)</p> <p>5,6. 免疫チェックポイント阻害薬 (immune checkpoint inhibitors, ICIs) は, 「Long tail effect」と呼ばれる効果により, 腫瘍の PD-L1 陽性細胞 (免疫組織学染色) が 50 %以上の患者では持続的な高い治療効果が得られることが知られている。肺癌治療における ICIs などの免疫治療の位置づけについて学ぶ。(担当:今井)</p> |                         |            |                                  |
| <b>授業計画</b>  |                         |            |                                  |
|  | 講義<br>(講義)              | 題目<br>(内容) | 担当教員<br>講座名<br>〔実施場所〕            |
| 1  | 気管支喘息, 慢性閉塞性肺疾患         |            | 中山 勝敏<br>呼吸器内科学<br>〔講座セミナー室〕     |
| 2  |                         |            |                                  |
| 3  | 急性呼吸不全                  |            | 今井 一博<br>胸部外科学<br>〔講座カンファレンスルーム〕 |
| 4  |                         |            |                                  |
| 5  | 肺癌における免疫治療              |            | 今井 一博<br>胸部外科学<br>〔講座カンファレンスルーム〕 |
| 6  |                         |            |                                  |
| 7  | 肺線維症, 肺感染症              |            | 中山 勝敏<br>呼吸器内科学<br>〔講座セミナー室〕     |
| 8  |                         |            |                                  |
| <b>授業形態および成績の評価方法・基準</b>   |                         |            |                                  |
| 講義室(研究室)での講義30時間+自学自習15時間, 計45時間で1単位とし, 評価は出席状況と口頭試問および筆記試験の結果, 提出したレポートの内容を考慮して行う。  |                         |            |                                  |
| <b>問い合わせ先(氏名, メールアドレス等)</b>  |                         |            |                                  |
| 今井 一博, karo@doc.med.akita-u.ac.jp  |                         |            |                                  |
| <b>その他特記事項</b>   |                         |            |                                  |
| 履修に関する情報:社会人大学院生など, 勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。   |                         |            |                                  |
| 教科書・参考文献:必要に応じて資料を配付する。または, 文献を指定する。   |                         |            |                                  |
| 自学自習時間における学習内容:到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。  |                         |            |                                  |